

平成 27 年度 第 1 回 秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会

会 議 概 要

開催日時	平成 27 年 7 月 2 日(木) 午前10:00～11:40
会場	秋葉区役所 401 会議室
出席者	委員 14 名 事務局 秋葉区健康福祉課:11 名 秋葉区社会福祉協議会:3 名 傍聴者 なし
議事(1)	<p>1 開 会 司会:秋葉区健康福祉課 川崎課長補佐 ・原則公開会議のため、録音、写真撮影及び会議録のホームページ公開の了承を得た。</p> <p>2 秋葉区健康福祉課 山田課長あいさつ 〈省略〉</p> <p>3 秋葉区社会福祉協議会 川上局長あいさつ 〈省略〉</p> <p>4 飯村委員長 あいさつ 〈省略〉</p> <p>5 委員交代の紹介 JR新津駅長が人事異動により7月1日付けで交代 前任 今 則雄(こんのりお) 委員 新任 中川 裕司(なかがわゆうじ) 委員 〈今回は欠席〉</p> <p>6 議 事 議長:地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員長 飯村菜穂子委員</p> <p>議 事(1) 平成 27 年度にいがた安心ささえ愛活動事業補助金の交付決定について</p> <p>(飯村委員長) 事務局より説明を。</p> <p>(事務局) 【資料1】により説明。 (地域福祉係 本名係長)</p>

	<p>5月27日(水)午前10時より審査会を開催。 申請は2件あり、審査の結果、2件とも交付決定となった旨の報告。 1件目は、「支え合い軽トレッキングの会活動支援事業」で、申請団体は「支え合い軽トレッキングの会」。</p> <p>この事業は2年目で、70歳以上の会員同士が、ゆっくり歩き健康増進と相互の助け合いと親睦を目的として、年間を通してトレッキングを楽しみながら、健康増進を図り、振り返り研修を行い、地域福祉に寄与する活動。 事業費は28万8733円、補助金交付決定額20万円。</p> <p>2件目は、「地域見守り活動」で、申請団体は「金津コミュニティ振興協議会」。</p> <p>この事業は新規で、高齢化の進行による社会的不安を少しでも緩和して安心安全な地域を目指し、地域の見守りボランティアの仕組みをつくる事業。ボランティアの募集登録、困りごと相談に役立つガイドブックの作製及び全世界配布、ボランティアバッチの作成、研修会の開催等。 事業費は33万5千円、補助金交付決定額20万円。</p> <p><質問等なし。></p> <p>議事(2) 議 事(2) 平成 27 年度秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画(2015-2020)における区および区社協の取り組み状況について</p> <p>(委員長) 事務局より説明を。</p> <p>(事務局) 【資料2】により説明。</p> <p>(児童福祉係 田辺係長) 1ページの上から5段目、「地域ですくすく子育てサポート」。 区づくり事業で、区内7か所での子育てサロンの開催、NPプログラム・EPプログラムの実施、中学生の乳幼児ふれあい体験、子育て講演会など。 5ページの下から3段目、「すくすく子育て情報発信」。 区づくり事業で、子育てに関する情報を、冊子ではなく、QRコードを印刷したファイルを配布し、スマートフォンを利用して取得してもらうというもの。</p> <p>(高齢介護係 小林係長) 2ページの下から4・5段目、「地域包括ケアシステム」関連事業。 住み慣れた自宅や地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、世代や障がいの有無を超えた地域における支え合いのしくみづくり。区の包括支援センタ</p>
--	--

一圏域ごとに協議体という会議を設置し、生活支援コーディネーターを配置。

高齢者を地域で支えるモデル事業は、「高坪の会」・「長寿楽」の2団体が常設の茶の間を活用して生活支援や運動の推進を実施している。

今後、検証も進めていく。

(健康増進係 水野係長)

3ページの上から5段目、「健康教育事業」。

健康についての知識をもって、関心を高めて健康増進を図っていただくことを目的に講演会や教室を実施するもので、毎年行っているが、今年度新規で始めるものが「楽しく脳力アップ塾」。65歳以上の方を対象に、5か月間にわたり週1回、読み書き計算などを楽しみながら行う脳の健康教室。30名定員のところ現在26名の申込みがあり、他の区に比べ関心が高い。

3ページの下から3段目、「足腰鍛えて笑顔で長生き」。

区づくり事業で、運動器の生活習慣病といわれるロコモティブシンドロームの予防体操を普及させることで、高齢者が自分の健康を維持し、地域の助け合いで元気高齢者を増やすことを目的として実施。昨年度実績で、ロコモ予防体操参加者は述べ1万人超。地域の方々から体操普及のサポーターになっていたが、サポーター増員のため再度サポーター養成講座を実施。

(障がい福祉係 岡村係長)

4ページの1番下、「障がい者チャレンジ支援」。

区内の障がい者福祉施設から派遣された3名から4名の障がい者の方が、区役所や事業所などでサポーター付き添いのもと、事務や軽作業を行う。実習先確保のため、情報提供をお願いしたい。

5ページの下から2段目、「障がい者基幹相談支援センター秋葉の運営」。

複数の相談員で、複数の区(秋葉は、江南・南・秋葉区)を所管し、一般相談支援、施設からの地域移行促進に係るコーディネート業務や権利擁護、虐待防止に係る啓発や研修、人材育成や助言指導など相談支援体制を強化し、安心して地域で暮らせる体制を整備。

(地域保健福祉担当 丸山係長)

5ページの上から5段目、「保健福祉相談・訪問指導事業」。

地域保健福祉担当は、保健師とケースワーカーで構成。保健師7名が秋葉区の各地区を担当し、健康問題や不安を持つ区民の生活の場である自宅へ訪問し、妊婦さんから乳幼児、高齢者、障がい者の方まで、広く保健福祉に関する相談や様々な支援を実施。昨年度の実績は、相談が 2264 件、訪問は 1760 名。

(秋葉区社会福祉協議会 齊藤局長代理)

秋葉区社会福祉協議会では、保健、医療、福祉の関係者、NPOの皆様、行政、そして地域住民の皆様と協力して、一人一人の生活を支え、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めていく。

資料2には、継続していく事業、新たに取り組む事業を掲載。

地域福祉計画・地域福祉活動計画の実現を目指して、地域の方々からのアイデアをまとめた「地域活動を進める 78 の提案書」(計画書別冊)を作成。これを具体化するために、地域の方々とともに話し合いを重ねていく。

提案書 49 ページ、小合地区は、サロン活動を中心とした地域づくりを進めている。昨年度、サロンごとに見守りマップを作り、声掛けが必要な方を地図上にしるしを付けた。この見守りマップをもとに、声掛けをしたり、チラシづくりなどをして、自宅に閉じこもるのではなく、サロン等に出て来てもらえるかを検討していく。

次に 59 ページ、金津地区ですが、先ほどのいいがた安心ささえ愛活動支援事業の該当事業。高齢化の進行に伴って、寝たきりや認知症の増加、また徘徊、介護疲れ、そして孤独死等、さまざまな不安を和らげて、安心安全な地域を目指した見守りの仕組みづくりを進める。今月末には、県内の先進地視察をして、金津地区に合った見守り活動を模索していきたい。

最後に 63 ページ、新関地区では、防災や人との絆づくりを中心に、誰もが安心して生活でき、互いに支え合う地域づくりを進めている。先日、6月 28 日を新関地域防災の日と定め、今までは六郷自治会が幸せの黄色いリボンでやっていたものを、新関コミュニティ協議会一斉に新関地域全世帯に新関の色として青いリボンを配り、安否確認と家族ごとに災害が起こったときにどんなことに気をつければいいのか、というチェックを行った。

このような地区ごとの活動を、秋葉区社会福祉協議会では、社会や地域とつながっているいろいろな課題解決を進めるコミュニティソーシャルワーカー、ボランティアの要望に対しボランティアをしてくれる人とつなげるボランティアコーディネーター、介護に携わる職員が応援するサロンなどの場や緊急キットの提供等をしながら支えていく。

7. 意見交換

(中野委員)

介護保険制度が大幅に変わって地域支援活動事業というものが始まるが、情報の収集をしたい。新規事業の中で、老人クラブ活動の中で参加できるような事業があったらお聞きしたい。

(山田健康福祉課長)

地域で支え合う仕組みづくりという地域包括ケアシステムをこれから構築していくので、老人クラブとしてできるもの、やっていただいていることがあれば提案していただくとありがたい。生活支援の部分や見守りなどが一番大きいのではな

いかと思っている。ただ、この事業自体は仕組みが出来上がっているのだから、老人クラブからという具体的なお話するのは難しい。

(中野委員)

社会福祉協議会の事業ですが、新規で「ゴミ出し支援事業」というのが、老人クラブの活動、参加という内容になじみやすいのかなと思っている。具体的な内容をお聞きしたい。

(社会福祉協議会 横山主査)

昨年度、モデル地区ということで、金津自治会と秋葉2丁目町内会の二つにお願いして、「ゴミ出し支援事業」を行った。金津自治会は、山間地域の石油の里の集落で、五泉に通じる道路があり、トラックなど車の交通量が多く、ゴミ出しに危険があり、距離が長い上に、坂道山坂で、ゴミ出しに行くまでに時間がかかるというところ。そういった地域ではボランティアや既存のサービスが難しい。そこで新津清掃社から社会貢献の一環として、ボランティアでご協力をいただいている事業です。

(山田委員)

今のゴミ出し支援の関係ですが、企業のボランティアと説明されたと思うのですが、私の中の理解では、いわゆる地域のどなたか手伝っていただいている方もやれるという事業だと思っていたのだけれども。

(社会福祉協議会 横山主査)

地域の中で助け合いをするということもありますが、この「ゴミ出し支援事業」は、企業からの協力による事業です。もちろん、ゴミ出しが大変だというようなご相談をいただいた場合、地域でできるかとか、既存のサービスで対応できるかとか、ご相談させていただきますが、2ページ目の下から三つ目の「ゴミ出し支援事業」については、企業の協力をいただいている事業です。

(山田委員)

分かりました。

(飯村委員長)

具体的にこの支援というのは、ゴミを取りに行ってくださいののですか。家に企業の方が行ってくださるのでしょうか。

(社会福祉協議会 横山主査)

ごみの収集日に、ゴミ収集車の方がついでに出すと違反になるということで、回収日の前日に、支援の必要な方のお宅に業者の人が行って、ゴミステーション

ンにごみを出しておく。ただ、前日はだめとか、朝8時までに出すとか、地区のルールがありますので、区分するために、ゴミ出し支援事業のシールを貼ってゴミステーションに出しておき、次の日に普通のゴミと一緒に回収するという事業です。

(飯村委員長)

それはすばらしい。ぜひ、どなたでもそういうのがうまく利用できるスタイルになるといいかなと思います。

(社会福祉協議会 横山主査)

今年度も、どの地域が必要か、包括支援センターからご協力いただいて、選定検討していきます。通年利用だけではなく、冬期間は足が滑りやすいなど、その辺の調整なども自治会とやらせていただきます。

(飯村委員長)

そうすると、係を超えた連携といったことも意味が出てきて、例えば健康のことなどにも通じることがあるかもしれないというので、先ほどの老人クラブのお話等、各地域の方たちの思いが反映されると、拡大するいい事業になるのかなとイメージしました。地域の方に宣伝していただき、こういうやり方もあるよということで、ゴミが出せなくて困っている人に、このメンバーの方が教えてあげるといいのではないかと思います。私は個人的にとっても便利な事業だと思いました。

(小田委員)

1ページ目の上から四つ目「地域ですくすく子育てサポート」の「中学校区ごとの子育てサロンの開設」について伺います。これからのママの手助けと、不安や子育てなどの手助けになれば一番いいなと思って、私としては支援したいと思います。質問ですが、中学校区ということで、現状ある育児サークルも、その数に含まれているのでしょうか。

(田邊児童福祉係長)

この子育てサロンですが、中学校区において、区で開催しているものです。この事業は、ヒューマンエイドに委託しており、スタッフが出向いて、午前中、ママとパパ、保護者の方とお子さんと遊びに来ていただいて、自由に遊んで、好きな時間に来て好きな時間に帰っていただくというようなサロンになりますので、ご質問の既存サークルとは違っているということになります。

(関根委員)

様々な部署の方から、福祉がいろいろなところと連携をして市民サービスを提供しているのだという、今まで何気なく私たちが参加してきたことについて、綿密

な計画のもとに実施されたということをお聞きしました。

二つほどお聞きしたいのですが、新潟県身体障害者団体連合会の出身ですが、障がい者手帳をお持ちの方でも協会に入っただけの方が少なく、高齢者ばかりになっています。障がい者手帳をお持ちの方にもう少し団体のPRをしていただけないかということです。この会を運営していくうえで予算不足があり、収入源として公共施設に自販機を設置して、売上に応じた補助金をもらっています。追加するために何かいいお知恵をお借りできたらということが一つです。

もう一つは社会福祉協議会の関係になりますが、私はボランティア協会に登録してまして、ハーモニカの演奏をあちこちの介護施設、自治会あるいは老人会に、四、五年になりますが、全部で七、八十回行っています。全くの無報酬です。社会福祉協議会のほうで、ボランティアに行った方については、例えば薄謝的なものでも補助があれば、その輪も広がっていくのではないかと。せめてガソリン代くらいのもので工面できないものかということをご提案させていただきます。少しご検討いただければと思います。

(山田健康福祉課長)

自動販売機の設置につきましては、法律上は売店という意味合いで、身体障害者福祉法の中でも優先的にとつたわれており、以前は、新潟県身体障害者団体連合会に限らず母子寡婦の団体やほかの障がいの団体等を優先して設置を進めてきたところですが、民間の参入がありまして、厳しい状況になっています。福祉団体の収入になりますので、設置は積極的に進めていきたいと思っているのですが、特に身障連が断トツに設置台数が多いという状況にあります。ほかの団体とのバランスもありますので、増設は難しい状況です。

(関根委員)

秋葉区内では2機だけですが、それでも多いのですか。

(山田健康福祉課長)

それぞれの施設がどうするかというのがありますが、市の方針として設置をする場合、通常は入札なので、その入札に参加していただくという手もあります。公平性から、今までどおり優先的ということが社会情勢的には難しいという状況で、設置をすぐにといわれても何ともいえないという状況です。入札には参加できますし、新規施設であれば新設ということもあると思います。

団体のPRですが、身障連だけではなくて、ほかの団体でも加入者が少なくなっているというのが現実だと思います。例えば、こういう団体があるという一覧表を作り、窓口に来られたときに、こんな団体がありますというチラシ等をお渡しすることは可能かとは思っています。団体に入ることによってこういうメリットがあるということを皆様方から積極的にPRしていただくというのが現実的ではないかと思っています。

(関根委員)

一般の団体が、皆さんのために活動されていますということを市報、区だよりなどでPRいただければありがたいと思います。

(社会福祉協議会 齊藤局長代理)

ボランティアの謝金の話ですが、社会福祉協議会として別途補助金で出すことは難しいので、施設と調整しながら、私どもボランティアセンターが間に入って相談させていただきます。

(関根委員)

ありがとうございます。

(飯村委員長)

ボランティアの方々の思いというのは、人のためにという本当に温かいお気持ちでやったださっている、その気持ちを踏みにじることがあってはならないと思います。またそこにお金が発生すると、今までのいい雰囲気、お金が動くことによって崩れていくという状況にもなりかねませんが、ボランティアが少なくなるとは困るということはありません。また、先ほどのゴミ出しの話など、どうしても人が人を支えないといけないという事情は、特に秋葉区は、非常に徹底されている素晴らしい地域だと私は感じています。モデル地区にもなれるような地域づくりというのが進んでいこうとしている。地域の方たちに、こういういい話があるらしいぞということを広くPRしていただく、大事な広報委員の役割をするのではないかなと感じました。地域福祉計画を地域の方たちとじっくり読んでいただきまして、一緒に考えていただきながら、暮らしている地域の日々の生活がどう豊かになっていくのかということが何よりも大切なところだと思います。地域の方たちに広めていただくという大事な仕事が皆さんたちに残っていると、私たちの使命であると実感を深めたというところではあります。

7. その他 特になし

8. 閉会